



帰国生の学校選び A to Z

●第7回●

高校卒業後の進路について考える

帰国後の学校選びで気になる点の一つが、高校卒業後の大学進学でしょう。高い進学実績のある高校に入学すれば、卒業後に名門大学に入学できる可能性もあるかもしれませんが、帰国生の場合は、そう簡単に日本語での学力が向上しないことも考えられます。ここではそんな場合に考えられる方法をご紹介します。

帰国生大学入試は、海外の高校を卒業しているか、卒業していなくても海外の高校に何年かは在籍していないと受験できないと多くの方がお考えでしょう。しかし、日本の高校に編入しても受験資格のある大学がありますし、場合によっては、海外では小中学校に在籍したのみで、高校は3年間日本という場合でも、帰国生入試の受験資格のある大学があります。青山学院大、上智大、明治大などが実施している海外就学経験者入試がそれに該当します。一般入試よりは入試科目の負担も少なく、受験倍率も低いので狙い目とも言えるでしょう。また、書類選考や面接を重視して選考するAO入試（アドミッション・オフィス入試）を実施している大学も増加傾向にあります。負担も軽く、海外での経験を活かせる入試です。

大学付属や系列の中高一貫校や高校には、大学に内部進学できるシステムもあります。校内選考に合格しないと進学できない学校もありますが、卒業生の多くが進学している学校が目立ちます。また、海外の大学と提携し、留学可能な制度を持つ学校もあります。

一方、日本の大学でも早稲田国際教養学部や上智国際教養学部のように英語だけで授業を受けられる大学もあります。このような大学の入試も帰国生にとって有利と言えます。

このように将来の進路として、いろいろな大学に目を向けることをお勧めします。

執筆者：丹羽 筆人

（文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所・アドバイザー）

河合塾での指導経験を経て、米国では補習校・学習塾で帰国生入試受験生を指導。現在はデトロイト補習校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所・アドバイザー。お問い合わせ先：E-mail bunkyo@ujec.org / Phone & Fax 1-855-926-1140

11月4週 388号掲載

